



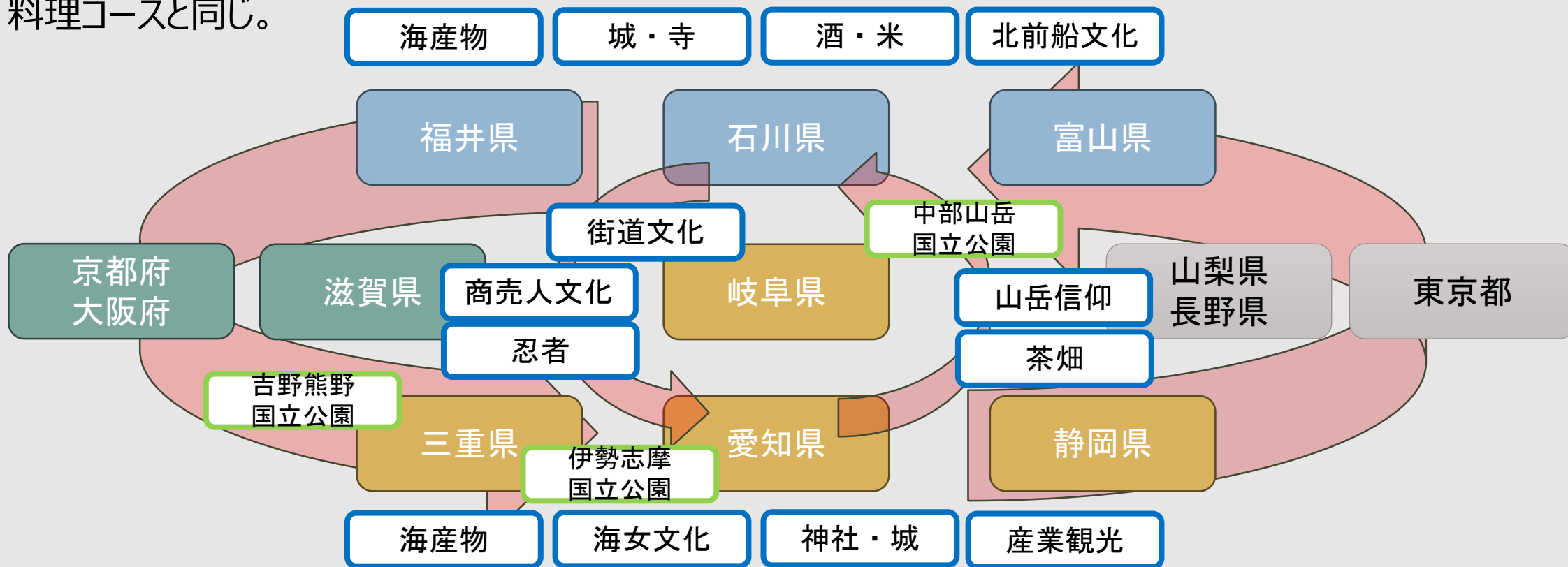
中部・北陸の 観光連携について

江崎貴久

中部と北陸の観光連携の課題

中部・北陸周遊（昇龍道）
ルートで、何泊させるか？宿
泊キャパ等、具体的イメージ

- 中部と北陸ルートはたくさんあるのに、観光資源が戦略的に活用されているルートは限られている。
料理コースと同じ。



インバウンドルートを生かす観光資源戦略が必要

中部と北陸の観光連携の可能性

周遊の観点から・・・

- 現状、点々ととどまる中部北陸の昇龍道の観光資源から、戦略的観光資源のマッチングルートを見つける。（料理コースのように） そのためには、実際のマーケット分析が必要。広域での調査。
 - ・ どういうルートで、どこで、何をしたのか。（マッチングの重要ポイントの抽出）
 - ・ 何を求めて、旅行したのか。（テーマ性・ニーズ）
 - ・ 友達や家族に勧めるポイント（強みの確認）
 - ・ 友達や家族に勧めたいけど、進められない理由。ハードルとなること。（広域ルート磨き上げの具体策の抽出）

宿泊施設のインバウンド受入態勢向上・・・

- 小規模・高齢化の宿や観光コンテンツの効率化と高付加価値化を一石二鳥で進める。手法をパターン化して、広める。
 - ・ オーナーの人生設計に合わせた計画と特長のある宿をリアル文化体験の宿として、売り出す。能登モデル。
 - ・ インバウンドに特化した海外OTAとの連携強化
 - ・ ライフスタイルの向上を目的としたゲストハウスの経営者の指導